

新しい扉

2025. 2. 6

「私にもできるのだから皆にもできる」と語る人がある。ところが、多くの人は、その人のようにすごい人になれるとは、到底思うことができない場合が多い。学校の先生もそうである。すばらしい授業をする先生がいる。その授業を参観した先生の中には、「よし、自分もがんばってみよう」と思う人がある一方で、「私にはできないな」と最初からあきらめてしまう人もある。そのすばらしさを認めてはいるのだが、自分には無理だと決めつけてしまう傾向がある。あの先生だからできることだと考えてしまう。

ここで、少し考えてみる。すばらしい授業ができるのには、必ず何かしらの理由があるはずである。あの人だからできるという考え方をやめるのである。あの人だからできると定義してしまうと、学びがそこで止まってしまう。

学校の先生に限らず、仕事をやっていると、何か問題が発生し、ずっと解決しないことがある。そういったときには、そこに一つの共通した症状がみられる。それは、人のせいにするということである。「あそこの会社は力があるから」「うちには人材がないから」「あの先生は特別だから」といったように、「〇〇のせいだ」という言葉が必ずどこかに出てくる。

そこで、問いかけてみる。「人のせいにして問題は解決しますか」誰に尋ねても「しない」と答えるだろう。にもかかわらず、我々は人のせいにしがちである。その結果、問題を放置してしまう。見方を変えれば、その症状があったとしたら、そこに改善のチャンスがあるということである。

世の中は、よき方向へ向かおうとしている。それなのに、その妨げになるものがあるとしたら、それは我々のもつ最も非生産的で問題が解決しない考え方、すなわち、人のせいにするということではなかろうか。これは、個人レベルでも、集団や組織、行政単位、国家レベルでも同じである。人は皆、世の中をよくしようとしている。平和を望んでいる。それは、間違いないことである。

自分の思うような仕事や部署に就けず、悶々としている人は少なくないだろう。こういったときは、人のせいにしがちである。仕事というものは、自分がいたら助かるという部分を見つけるところから始まる。そして、それは必ず見つけられる。職場には、必ず困っていることがあるからである。自分を雇ってくれた理由とは何か。それを自らに問うところに、きっと新しい扉が開かれている。自分が、まわりから必要とされる人間になれるかどうか。そこから活路を見出していく。うまくいかないときこそ、成長のチャンスである。